

平成 18 年 10 月 18 日

## 6 号機原子炉冷却材再循環ポンプ（H）の直流制御電源装置の交換について

東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

6 号機（改良型沸騰水型、定格出力 135 万 6 千キロワット、定格熱出力一定運転中）は、10 台ある原子炉冷却材再循環ポンプのうち、1 台（H）の可変周波数電源装置<sup>\*1</sup>内に設置されている直流制御電源装置が 7 月 25 日に故障しましたが、可変周波数電源装置を制御する電源は、交流制御電源装置および直流制御電源装置により二重化されており、現在は交流制御電源装置により制御されていることから、原子炉冷却材再循環ポンプの機能ならびにプラントの運転に支障はありません。このたび、10 月 19 日に行う制御棒パターン調整作業<sup>\*2</sup>にあわせて直流制御電源装置を交換することといたしましたのでお知らせします。

直流制御電源装置の交換作業ならびに制御棒パターン調整作業は、出力を約 85 万キロワットまで降下させて行いますが、作業が終了次第、定格熱出力一定運転に復帰させる予定です。

なお、本事象は法令で定めるトラブル事象ではありません。

以 上

### \* 1：可変周波数電源装置

運転中は可変周波数電源装置（インバータ）で直流電源を所定の周波数の交流電源に変換することにより原子炉冷却材再循環ポンプの回転数を制御し、原子炉圧力容器の中を循環する水（冷却材）の量を調整することで、原子炉の出力をコントロールしている。

### \* 2：制御棒パターン調整作業

原子力発電所は、通常定格出力を維持して運転しているが、燃料であるウランが燃焼にともなって消耗するため、一定の出力を維持するために炉内に挿入する制御棒の位置などを変更する操作を制御棒パターン調整という。制御棒パターン調整は定格出力で行う場合と、今回のように燃料への影響を緩和するため、原子炉の出力を下げて実施する場合がある。